



Kurumaya
Museum
of Art

車屋美術館

〒329-0214 栃木県小山市乙女 3-10-34

Phone: 0285-41-0968 Fax: 0285-41-0922

E-Mail: d-kurumaya@city.oyama.tochigi.jp

Web: <http://www.motherslashland.com/>

Mother/Land

プレス・リリース

2014.06.28(土)~09.07(日)



Mother/Land

車屋美術館開館5周年を記念する現代美術展「Mother/Land」では、ニューヨーク在住の原田真千子をゲストキュレーターに迎え、国際的に活動する8組のアーティストによる、土地と人を主題とするアート作品を展示します。様々な理由で置き換えられてしまった環境や状況、ディスプレイメントについて考察する展覧会です。

― 土地、ひと、いたみ、そして育み

全てのの人に母国(マザーランド)はありますが、平穏な日常においてそれを意識することはあまりないでしょう。それは多くの場合、その土地を離れて暮らす移住者や、非常時において強く憶われる、象徴としての土地や人々であり、自らのアイデンティティーが帰属する、政治・社会的な出身国を指します。母なるふるさととしてのセンチメンタルなイメージとともに、ナショナリスティックな響きを内包する言葉です。

3年前の東日本大震災では、地震と津波そして原発事故が一瞬にして土地と人を奪い、移住せしめ、多くのいたみが生まれました。被災者はもちろん、そうでない個々であっても、このいたみを克服したいと強く願い、私達の多くは国や人々を想う気持ちが強くなったのではないのでしょうか。そして個人主義的社会のなかで失われていた、人々の共同意識や民族意識は、この災害を契機に呼び覚まされました。これらの意識は、災害支援や復興活動において極めて献身的かつ創造的な行動を生み出す一方で、他者を差別し憎悪表現をすることでいたみを癒そうとする行動が現れてきた事実も見逃す事はできません。

本展では、タイトルのマザーとランドの間に斜線を記すことで一語を分断し国家主義、民族主義的概念の解消を表明しています。そしてこの区切りが母性を強調し、私達の生存に不可欠な育成のアプローチ、大地の育みを慮らせずにはおかないことを主張しています。8組のアーティストの作品をとおして、かけがえのない日常や大切な人々に向きあい、慈しむ機会を共有したいと考えています。

■ 展覧会情報

タイトル : Mother/Land (マザー/ランド)

企 画 : 原田真千子 (インディペンデント・キュレーター)

作 家 : ニコラス・ガラニン、シゲユキ・キハラ、ゲッラ・デ・ラ・パス (アライン・ゲッラ&ネラルド・デ・ラ・パス)、古郷卓司、鳥光桃代、ラウラ・ホレリ、守章、安田佐智種 (8組9名)

会 期 : 平成26年6月28日(土)~9月7日(日)
午前9:00より 午後5:00 (入館は閉館の30分前まで)

休館日 : 月曜日、第4金曜日、祝日の翌日

内 容 : 現代美術展 (映像、写真、インスタレーション)

会 場 : 小山市立車屋美術館

主 催 : 小山市立車屋美術館

助 成 : 公益財団法人 朝日新聞文化財団、Arts Council of Finland、FRAME、Arts council of Alaska



協力：BASE GALLERY、CONCENT, Inc.、Galerie Barbara Weiss、Milford Galleries Dunedin、
NEC ソリューションズ、TRNK exhibition preparation.

後援：朝日新聞宇都宮支局、エフエム栃木、NHK 宇都宮放送局、産経新聞社宇都宮支局、
下野新聞社、テレビ小山放送、東京新聞宇都宮支局、とちぎテレビ、栃木放送、
毎日新聞宇都宮支局、読売新聞社宇都宮支局

観覧料：一般 400 円(300 円) 高校・大学生 250 円(150 円)
中学生以下無料 ※()内は 20 名以上の団体料金

問合せ：小山市立車屋美術館
〒329-0214 栃木県小山市乙女 3-10-34 TEL:0285-41-0968

特設ウェブサイト：<http://www.motherslashland.com/>

■ 関連プログラム

●オープニングセレモニー&アーティスト・トーク

日時：平成 26 年 6 月 28 日(土) 13:00~

場所：小山市立車屋美術館

※ 申し込み不要、チケットをお持ちの上展示室入り口へお集まり下さい。

●キュレーター・トーク

日時：平成 26 年 9 月 7 日(日) 13:00~

場所：小山市立車屋美術館

※ 申し込み不要、チケットをお持ちの上展示室入り口へお集まり下さい。

○「Mother/Land」関連ワークショッププログラム

●碓井ゆい

「旅するボタンの小物をつくろう！」

日時：平成 26 年 7 月 27 日(日)14:00~

場所：小山市立博物館

内容：自分や家族の着終わった服のボタンやアンティークのボタンなど、違う場所にあったボタンを組み合わせて小物をつくります。

持ち物：家にある着終わった服のボタン

定員：20 名(要予約)

参加費：500 円

●五月女哲平

「自分の旗をつくろう！」

日時：平成 26 年 8 月 3 日(日)14:00~

場所：小山市立博物館

内容：自分のシンボルマークをデザインして旗をつくります。

持ち物：汚れてもいい格好またはエプロン、筆、筆洗

定員：20 名(要予約)

参加費：500 円



■キュレーター

・原田真千子 (はらだまちこ/在ニューヨーク)

愛知県生まれ。2010 年よりニューヨークを拠点とするインディペンデントキュレーター。金沢にて芸術学、イエーテボリにて制作を学ぶ。CCA 北九州ならびにアムステルダム De Appel 現代美術センターにてキュレーターの実践研修を積む。

金沢美術工芸大学の国際的芸術家滞在制度にてアシスタントディレクター(1999, 2000)を務め、秋吉台国際芸術村ではキュレーターとして数多くの展覧会、公演、ワークショップ、セミナー、レジデンスプログラムを企画・運営してきた(2001-2010)。最近では、あいちトリエンナーレ 2013 にてアシスタントキュレーター、アントワープでは Extra Academy の講師を務めた(2014)。

■アーティスト

・Nicholas Galanin (ニコラス・ガラニン/アラスカ, U.S.A)

1979 年アラスカ州シトカ生まれ。先住民族の伝統芸術と現代アートを幅広く習得してきたガラニンの作品は、彼の文化を維持すると同時に、新しい知覚的領域を探索している。主な展覧会に、Trench Contemporary, Vancouver(2011,2012,2014)、アラスカ州立美術館(2013)、サンタフェ現代ネイティブ美術館(2010)等での個展の他、アメリカ、カナダ、ニュージーランド、ドイツでのグループ展多数。日本では初めての展示である。

・Shigeyuki Kihara (シゲユキ・キハラ / サモア、在オークランド)

1975 年サモア生まれ。自らの身体をメディアとして性、人種、文化そして政治の間にある多様な関係性を探索する写真、ビデオ、パフォーマンス等の作品を制作、キュレーターとしても活動している。主な展覧会に、パタカ美術館(2014)、ユタ美術館(2013)、メトロポリタン美術館(2008)等の個展、第4回アジアパシフィックトリエンナーレをはじめとする国際展やグループ展で国際的に発表。日本では初めての展示となる。

・Guerra de la Paz (ゲッラ・デ・ラ・パス : アライン・ゲッラ、ネラルド・デ・ラ・パス / 共にキューバ、在マイアミ)

アライン・ゲッラは 1968 年ハバナ、ネラルド・デ・ラ・パスは 1955 年マタンザ(共にキューバ)に生まれ、それぞれ幼少期にアメリカに移住、1996 年よりマイアミにて共同制作を始める。廃棄される運命にある古衣料を主な素材として、彫刻やインスタレーションを制作、パフォーマンスを展開する。アメリカ、ヨーロッパ、トルコでの個展やグループ展多数。国内ではあいちトリエンナーレ 2013 にて滞在制作、発表した。

・古郷卓司 (こごうたくじ/日本、在福岡)

1965 年東京生まれ、福岡を拠点に活動。1997 年よりコラボレーションのためのプラットフォームとして *CANDY FACTORY PROJECTS を主宰し、様々なアールスペースやインターネット、書籍上での企画やプロジェクトを展開している。New Museum, NY(as ROBOT, 2013)、Linnman Gallery, Sweden(2012)での個展の他、国内外での国際展、グループ展多数。また近年では AIK ディレクターとして北九州ビエンナーレを北九州他、ドイツ、シンガポール等でも企画、開催している。



・ 鳥光桃代 (とりみつももよ/日本、在ニューヨーク)

1967 年東京生まれ。1994 年匍匐前進するサラリーマン姿のロボット「宮田二郎」でのデビュー以後、主に企業文化の偽善的なイメージや日常における資本主義体制を、アイロニーやユーモアのある表現で制作している。1996 年 P.S.1 でのアーティスト・イン・レジデンスを機に渡米、以来ニューヨークを拠点に活動する。日本はもとより、アジア、ヨーロッパ、アメリカ、オーストラリアでの個展、グループ展多数。

・ Laura Horelli (ラウラ・ホレリ/ フィンランド、在ベルリン)

1976 年ヘルシンキ生まれ。2001 年よりベルリンを拠点に活動する。パブリックとプライベートの概念をとりまく、記憶や物語、言語、会話、そして理解についての作品を、写真やビデオ、インスタレーションで制作している。主な展覧会に Goethe-Institut Kenya(2010)、Galerie Barbara Weiss, ベルリン (2003,2007,2011)、Ludlow38, ニューヨーク(2012)での個展の他、ヴェネチア・ビエンナーレ(2001,2009)、マニフェスタ 5(2004)等の国際展に多数参加。

・ 守 章 (もりあきら/日本、在東京)

1967 年宮城県生まれ。1996 年より双子の兄弟ユニットとして自己と他者との距離を探る活動を始める。現在は弟の喜章が同名で、主に 集団や自治体等の区分けに存在する見えない境界を視聴覚化するインスタレーションを制作している。近年の展覧会に、遊工房アート・スペース(2012)、AIT ROOM(2012)での個展、「山口盆地考-閨-」(2012,木町ハウス)、「そらいろユートピア」(2014,十和田現代美術館)等のグループ展がある。

・ 安田佐智種 (やすださちぐさ/日本、在ニューヨーク)

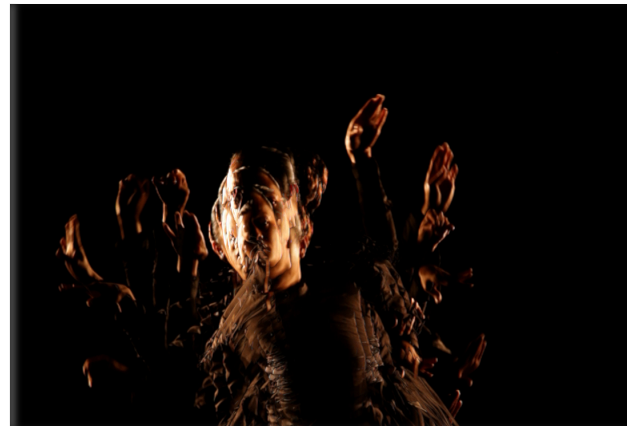
東京都生まれ。東京芸術大学大学院修了後に渡米。ニューヨークを拠点に活動する。身体記憶と視覚の関係性を追求する作品を制作している。主な個展に、カリフォルニア写真美術館(2005)、Base Gallery(2012)、グループ展に国立新美術館(2009)、セゾン現代美術館(2011)などがある。



■ 報道用写真(参考作品)



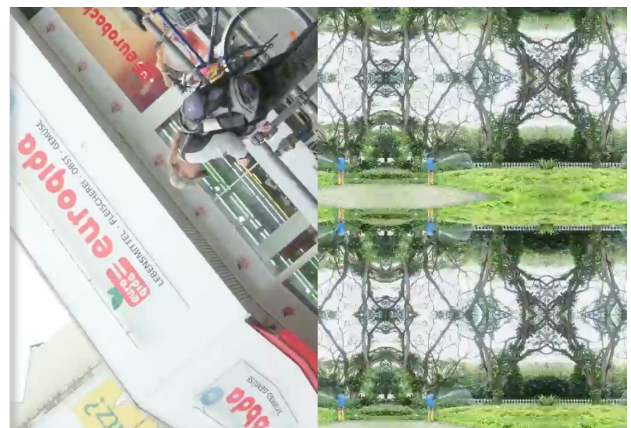
Nicolas Galanin
"Tsu heidei shugaxtutaan pt.2" Video still, 2007



Shigeyuki Kihara
"Siva in motion"
Video still, 2012
Auckland Art Gallery Toi o Tāmaki, Auckland.
Courtesy of Shigeyuki Kihara Studio and Milford
Galleries Dunedin, New Zealand



Guerra de la Paz
"Rocks"
Installation, 2013



Takuji Kogo
"NON-SITES"
Flash Video, 2005~



Momoyo Torimitsu
"Business as Habitual"
Video, 2013



Laura Horelli
"Haukka-Pala"
Video, 2009
Courtesy of the Artist, Galerie Barbara
Weiss, Berlin



Akira Mori
"AllDay 23Wards, 2012



Sachigusa Yasuda
"Michi"
Digital photograph, 2013